

みんなの広場



※上のイラストは、題字と同じ内容を指文字と手話で表したものです。

主な内容

- 巻頭言～年頭にあたってのごあいさつ 2
- 好地荘50周年～地域の皆様に感謝～ 3
事業団永年勤続表彰、事業顕著者表彰式
- [特別企画] みんなの食事大集合!! 4、5
～たばしね学園、松山荘、松風園、中山の園グループの取組み～
- シリーズ 新規事業紹介③ 6
～発達障がい沿岸センター～
- いわて子どもの森 被災地支援 7
いわて障がい福祉復興センター
- 製品紹介 8

114号
平成25年2月1日 発行



☆**救護施設 好地荘**
～小正月行事～



みんなの健康を願って

1月11日、小正月の恒例行事、みずき団子作りをしました。
無病息災を願って色とりどりのお団子を木の枝に飾りました。
昼食にはおしるこなどを味わいながら、新しい年をみんなで祝いました。

みんなの広場 2013 第114号 平成25年2月1日発行

発行/社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 〒020-0114 盛岡市 萩原三丁目7-33
電話 019-662-6851 FAX 019-662-8044
URL http://www.iwate-fukusho.or.jp E-mail fukushij@iwate-fukusho.or.jp

製品紹介



当法人の事業所で生産・販売している製品を紹介いたします。
興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

1 岩手県療育センター 障がい者支援部 (盛岡市)

湯のみ、カップ皿等



価格 100円～600円
※大きさにより変わります。

[問い合わせ先] 担当：小原
TEL 019-624-5141 E-mail : a-obara@i-ryouiku.jp

2 地域生活支援センター「歩夢」(盛岡市)

歩夢弁当



ボリュームたっぷり、手作り弁当。
ご飯は大・中・小盛りに無料で変更できます。

価格 400円～
※ご希望の予算に応じます。

[問い合わせ先] 担当：晴山
TEL 019-662-6852 E-mail : ayumu@iwate-fukushi.or.jp

3 松風園 (花巻市)

コーヒー・シフォンケーキ

世界でも希少な高級珈琲豆ペーベリー(タンザニア)だけを贅沢に使用した、口当たりはフワフワ、噛むほどに自家焙煎珈琲のやさしく上品な味が漂う一品です。



1カット.....150円
1ホール(21cm型)1,200円

※イベント販売や訪問販売だけでなく、注文販売も受け付けております。

[問い合わせ先] 担当：佐藤
TEL 0198-45-3016 E-mail : shoufu@fukushi-sfe.jp

4 松山荘 (宮古市)

木工製品 岩手県産のスギを使用した木工製品です。



花台(大).....600円
花台(小).....400円

プランター(小).....700円
プランター(大).....800円

[問い合わせ先] 担当：山影
TEL 0193-62-7921

5 ワークなかやま (一戸町)

～喫茶部門 ゆめれたす～ 軽食セット ケーキセット



ホットホットカレー
ドリンク付.....500円
単品.....400円

ドリンク付.....400円
単品.....300円

～自家焙煎コーヒー～

職場の親睦会など
コーヒー豆のご利用
はいかがでしょうか?
500g以上のお買い
上げの場合、割引価格
になります。



[問い合わせ先] ワークなかやま(中山の園)
TEL 0195-35-2074

6 みたけの園 いちよう寮 (滝沢村)

ガラス製品



きららのあかり
LEDライトを利用し
たガラススタンドで
す。
12cm角...3,000円

きらりんピン
オリジナルのデザ
インを描いた画びょう
です。
5個セット...300円

きらりんキャンドル
オリジナルのデザ
インを施したガラ
スキャンドルです。
1個.....500円

油とーるくん

天ぷらなどの残り油に入れるだけ
で油を吸い取ってくれる、牛乳パッ
クをリサイクルして作りました。
白・6個入り.....150円
色つき5個入り...150円



[問い合わせ先] 担当：紺野
TEL 019-641-0205 E-mail : mitake@alto.ocn.ne.jp

限りない向上を目指して

岩手県社会福祉事業団

理事長 藤原 健一

昨年、当事業団は、「中長期経営基本計画（23―32年度）」をスタートしました。計画は、概ね順調に進捗しています。計画は、概ね順調に進捗しています。計画は、概ね順調に進捗しています。

行動指針の第一は、「常に、お客様の立場に立つて考え、人権の擁護とお客様本位の質の高いサービスの提供に努めるとともに、創意工夫し、社会環境の変化や地域ニーズに即応する新たな事業の展開に挑戦することであり、第二は、「幅広い関係者との連携・協働による地域福祉の推進」です。実施計画重点目標の「お客様本位の良質かつ適切なサービスの提供」と「地域福祉の推進と施設機能の強化」に取り組み、様々な「挑戦」が行われています。

最も基本となる人権の擁護については、一昨年の人権侵害事案の反省に立ち、虐待防止に関する研修や自己チェック、分析の徹底、人材育成、法人のチェック体制の強化に取り組んでいます。今後、他の模範となるような事業団を目指したいと考えています。

サービスの向上に関しては、「職員改善提案件数」が、12月末現在で504件

と年度目標300件を越え、様々な改善が図られています。全国社会福祉事業団協議会の実践報告・研究論文コンクールには、3施設が挑戦し、松山荘の「震災対応の見直し」が優秀賞を受賞しました。行動指針に沿った、職員の積極的な取り組み・チャレンジの姿勢に当事業団の大きなポテンシャルを感じています。今後、「カイゼン手法」の導入等により、一層の向上が期待されます。

地域ニーズに即応する事業展開に関しては、県や市町村との積極的な連携



プロセスマネジメント会議の様子。中長期経営基本計画の着実な推進を図っています。

を図り、東日本大震災復興対策の3事業受託を始め、相談支援事業の充実、新たな市町村事業の受託、ケアホームの新設など、事業団の多様な専門機能を生かし、積極的に挑戦しています。広域的に多様な施設と幅広いサービス・人材を有する事業団の強みを生かし、地域ニーズに即応したサービス提供と地域福祉の一層の推進を図るため、エリア毎の施設連携体制の強化が必要と感じています。

行動指針の第三は、「計画的に人材を育成し学習する組織を目指す」ことです。個別人材育成計画を導入し、個人の希望も考慮した教育研修、人事考課、目標管理制度の実施等と人材の育成を進めています。人材確保・育成とトータルマネジメントの実現、職員処遇の向上、働き甲斐のある職場づくりの多くは、経営改善検討委員会で検討を進めているところです。

今後、推進体制を整え、本格的に人材の育成に着手したいと考えています。成果と成長（仕事を通じ、スキルとマインドの両面の個人的成長が得られ、自分が成長していることが実感できる）が両立する強い職場づくりが理想です。

自助努力の精神を基に、「思いやり」「学び」「反省」「向上」の四つのマインドを大切に、「優しい心、高い専門性、強い責任感と自省心を持ち、向上発展する」人材の育成に努め、学び続ける組織を目指します。

行動指針の第四は、「信頼される組織運営と経営基盤の安定・強化に向けた改革・改善を進める」ことです。施設長等全管理職による事業プロセスマネジメント会議を四半期毎に開催し計画の着実な推進を図るとともに、外部の識者等からなる「総合企画委員会」を設置し、経営基盤の強化や経営計画等について意見を求めています。老朽化した「やさわの園」の改築が順調に進んでおり、「療育センター」も矢中の岩手医科大学の隣地への整備が始まります。財務基盤の安定については、より迅速・詳細な経営分析の体制を整え、当面、28年度からの完全自立（自律）経営の確立に向けて改革・改善を進めます。

おわりに、本年も、内外外部の環境の変化に応じ様々な問題が生じると思いますが、問題点は宝の山です。私たち事業団は、福祉事業を通じた幸福の生産者として、すべてを「成功の種」と考え、共に限りない向上を目指していきたいと思います。向上を目指す人間や組織には、無限の可能性があると信じているものです。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

好地荘 開設50周年 地域の皆様へ感謝

好地荘は、昭和37年6月、生活保護法に基づく岩手県初の救護施設として開設されました。以来、岩手県をはじめとする関係機関や、地元花巻地域の皆様方のご支援をいただき、お蔭をもちまして昨年で開設50周年という節目を迎えることができました。

開設当初の好地荘は、財政的にも厳しく職員も経験が浅かったため、少数の職員で昼夜も問わず利用者と辛苦を共にし、幾多の困難を乗り越えてきたと聞いております。その後は、社会福祉制度も拡充し、平成3年には施設が全面改築されるなど、利用者の生活も

改善されました。

平成に入ってから、施設の運営方針も利用者の生活の質の充実や生きがいのある生活作りに徐々にシフトし、日課に和太鼓活動を取り入れて町の芸術祭に出演するなど、地域活動を通じて地域の方々との交流を図り、施設援護の理解を得てきました。

また、この10年間は、利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、多様なニーズに対応した、きめ細かいサービスの提供が求められたことから、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づいた支援の充実に努めてきました。

さらに、地域生活を希望する利用者に対しては、居宅生活訓練事業や保護施設通所事業などを通して、地域における自立生活の実現に向けた支援を続けるとともに、多様な障がい有する在宅の要保護者の積極的な受け入れを図るなど、救護施設としてのセーフティネット機能の充実に努めてきま



50周年記念式典の様子。理事長から感謝状が贈られました。

こうした好地荘の半世紀の歴史を振

永年勤続者 事業顕著者表彰式

昨年11月30日、「ホテルイズ」において、永年勤続表彰式が行われ、勤続25周年を迎えた8名に表彰状と記念品が授与されました。

当日は事業顕著者表彰式も行われ、第35回全国社会福祉事業団実践報告・実務研究論文において「優秀賞」を受賞した松山荘3名の職員が表彰されました。



永年勤続表彰を受けたみなさん（前列）。理事長を囲んで記念撮影。

平成二十三年度 職員提案制度表彰式

昨年11月16日、平成23年度職員提案制度表彰式が事務局理事長室にて行われ、理事長より入賞者及び入賞施設に表彰状が授与されました。

本年度においても、各施設で積極的な取り組みがなされているところであり、今後も制度の実施をとおして、職員や施設の主体的な問題解決能力を高め、法人全体の経営改革の推進を図ってまいります。



金賞を受賞した「共同生活事業所みたけの園」立花主任生活支援員。

50周年記念誌を発行しました。



たばしね学園

たばしね学園には、5才から19才までの児童46名が入所しています。成長期の児童ですので、メニューの色彩を大事にしたり、偏食や拘りがある児童にどのようなしたら食事を食べてもらえるかなど、色々と工夫をしています。

たとえば、野菜が苦手な児童が多いため、みじん切りにして肉やソースに混ぜたり、飾り切りにしたり、食べやすい大きさにしています。また、献立表は、平仮名で書き、材料のイラストを入れて分かりやすくしています。

手作りメニューにも力を入れていきます。ハンバーグは、さんまのすりみ、おから、ひじき、大豆、枝豆、レンコンなど種類が豊富で、ソースも色々な種類を作ります。

このほか、偏食の児童には、調理実習を行っています。学園では、ご飯と納豆、バナナ以外は食べない児童が、調理実習では、焼きそば、餃子、お好み焼き、目玉焼き、カレーライスなど、自分で作ったものは食べられるようになりました。また、給食に興味を持ってもらうため、バランスのよい食事が健康にとっても大切なことを、児童に分かりやすく説明しています。

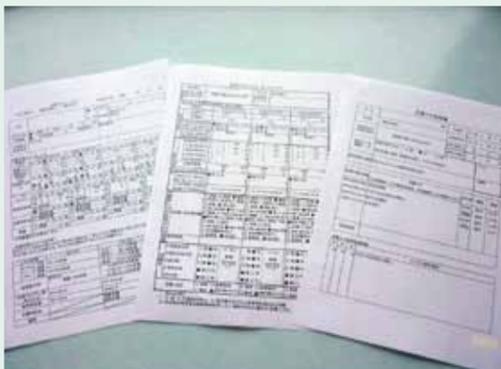
今日、施設の食事提供においては、冷凍食品を使用する場合もあるようです。

松風園

松風園は男性38人、女性18人の方が入所している障害者支援施設で、平均年齢は35歳、19歳から71歳まで幅広い年代の方が利用されています。

利用者が自立して快適な日常生活を送れるよう、また、自己実現ができるように支援するため、特に食事の面から、「栄養ケアマネジメント」に取り組ま始めました。

栄養ケア計画の作成には、①嘱託医からの前提となる病名、血液検査、投薬情報、②生活支援員からの食事摂取量の状況、③看護師からの体重推移等の身体状況を、それぞれ情報収集します。さらに、低栄養または過栄養状態等のリスクを



左から、栄養ケアマネジメントで使用するスクリーニング表、アセスメントモニタリング表、栄養ケア計画書。



調理実習の様子。「ほくが作ったよ！」胸をはれる作品でした。

が、冷凍食品には野菜が少なく、味付けも同じでは、味覚が育ちません。たばしね学園では、児童一人ひとりの嗜好や偏食などを理解したうえで食事を考え、厨房職員は、児童の「おいしかったよ」の笑顔を最高の励みに、旬のおいしさと手作りのおいしさ、それに愛情が入った給食を日々児童に届けています。

（栄養士 佐藤敦子）

特別企画 みんなの食事大集合



たばしね学園、松山荘、松風園、中山の園グループ
～食事提供の取組み～

普段の生活の中で食事を楽しみにしている人は多く、それは施設で暮らし方も同様です。そこで今回は、当法人の施設での食事提供について、現状や取組みなどを4つの施設の栄養士さんに紹介してもらいます。

松山荘

宮古市にある松山荘は、東日本大震災において、関連施設とともに人的被害はありませんでしたが、直後にガス、水道、電気が全て止まってしまいました。

当日から1週間、スプリンクラー工事で厨房が使えなかったため、外注弁当を予定していました。備蓄食もお粥と缶詰ばかりで、先のことを考えると不安になりました。

こうした中で心強かったのは、法人内の施設から、被災後3日位で支援物資が届いたことです。食材がない中で非常にありがたかったことで、特に温かいそばは



備蓄庫には3日分の食料を保存しています。

利用者にもとても好評でした。

給食委託業者から食材が届くまでの2週間、支援物資で食事提供することができましたが、今回の震災で、災害時における施設と委託業者の対応や連携について、課題が浮き彫りとなりました。

そこで、施設と委託業者で話し合いを持ち、特に備蓄食の体制について見直しを行いました。食材の備蓄は委託業者が行うこと、水、食器類に関しては、施設側で備蓄することとしました。具体的には3日分の朝昼夕の献立を作成後、それに必要な食材を施設で備蓄し、賞味期限が切れる前に委託業者が備蓄食材を献立に組み込み、使用した分は補充するようにしました。

このように、松山荘では、入所している方々が安心して生活できるように、施設と委託業者との連携をさらに強化し、日々、災害時への備えを行っています。

（栄養士 佐々木千恵子）

ある日の食事



中山の園グループ



松風園



松山荘



たばしね学園

中山の園グループ

平成24年10月1日現在、中山の園グループ6施設の入所者数は210人（男子101人、女子109人）であり、平均年齢は55.7歳と高齢化が進んでいます。

厨房からの食事提供形態は、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの疾患による個別対応食に加え、摂食・嚥下障害に配慮したものとなっております。その内訳は、ブレンダー食15人、超きざみ食12人、粗きざみ食83人、普通食100人で、高齢化などにより、きざみ食への移行が増加しています。



中山の園グループにおいて提供しているブレンダー食。

（中山の園管理センター 栄養士 白梅愛子）

摂食・嚥下障害に対応した食事は、水分の添加により栄養密度が低下し、十分な栄養を摂取することが難しくなります。そのため、強化食品を調理の段階で添加したり、エネルギー、たんぱく質、ビタミン類、亜鉛、鉄分、食物繊維などを強化した食品を補う必要があります。食材本来の持ち味を活かし、栄養のある食事を、いかに美味しく利用者に味わっていただけるかは、私たち厨房職員の腕にかかっていると痛感しております。食事を楽しむことは、利用者の健康にもつながります。嚥下に障害がなく、かつ普通食と同じ形に再現した食欲をそそのソフト食メニューの考案など、「思いやりの食事」をモットーに、今後新しい技術の獲得や、食材の選択、調理方法の工夫と研究を重ねていきたいと思えます。

子どもたちにたくさんの笑顔を

～いわて子どもの森 被災地支援～

東日本大震災によって、沿岸部の被災地では、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しているため、子どもたちが、安心感を取り戻し、友だちと一緒に遊べる環境づくりが求められています。

そこで、子どもの森では、いろいろな遊び体験をとおして、子どもたちが孤立することなく、家族や地域の方々と一緒に楽しい時間をもってもらいたい



みんなで一緒に作品づくり

よう、沿岸部の被災した市町村の子どもとその保護者、地域関係者を招待する「児童招待事業」を当館の自主事業として行っています。

招待する団体の募集にあたっては、沿岸市町村に事業の広報や利用申し込みについてご協力いただいた結果、11月から1月にかけて大船渡市、洋野町、宮古市、久慈市、岩泉町から5団体の利用申し込みがありました。

11月に招待した子どもたちは、館内の遊び場のほか、当日開催されたグット・トイ展の展示されたおもちゃで遊んだり、作品づくりのワークショップなどに参加していました。1日では遊びきれなかったようで、子どもたちからは、「楽しかった!!」か「もっともっと遊びたい」などの感想を、たくさんいただきました。

子どもの森では、事業のほかに、「あ



手づくりのメッセージをいただきました

そびにコンビニ」(地域共催型移動児童館)の実施や、岩手県社会福祉協議会児童館部会が主催する「いわて子どもあそび隊」への参加など、被災地の子どもたちへの遊びの提供などの活動も、継続して行っております。

いずれの活動についても、関係機関・団体などのご協力をいただきながら、被災地の子どもたちがのびのびと遊ぶことができるよう、スタッフ一同、支援を続けていきたいと思っております。

(主事 吉田 豊)



ココ 沿岸センターキャラクターのカモメ 個々と心と場所のココを意味します。



発達障がい沿岸センターの様子

〈はじめに〉
当センターは、県から「被災地発達障がい児支援体制整備事業」の委託を受けて、この4月に釜石市に開設されました。スタッフは相談員2名と事務員1名の計3人体制で、岩手県発達障がい者支援センターウィズと連携し、①相談支援(本人・家族・機関等)、②機関支援(各機関への協力)、③研修会への協力などを、活動の柱として、発達障がいに関する支援を、沿岸地域で展開しています。

被災地である釜石に、新たに拠点を構え事業展開していくにあたっては、沿岸地域の市町村、相談支援事業所、特別支援学校など、関係機関との連携は不可欠です。各機関は、それぞれの立場で発達障がいについての課題を抱えています。情報交換などをしていく中で、相互作用によって支援の輪を広げているともいえます。

発達障がい沿岸センター(釜石市)

今年度からスタートした事業所等の紹介も今回で最終回となります。

シリーズ 新規事業紹介 ③



が、潜在的なニーズへの迅速な対応を可能とし、支援が必要となった際に、ニーズに合わせた形で相談対応にもつなげていくことができると考えます。

〈活動報告〉

去る12月8日には、県南広域振興局合同庁舎を会場に、『発達障がい沿岸シンポジウム』を開催しました。まず、岩手大学教育学部特別支援教育科准教授の滝吉美知香先生に、「発達障がいにおける自己理解と居場所について」の基調講演をしていただきました。引き続き、当事業団で行っている復興支援事業についての実践報告や、沿岸の宮古、大槌・釜石、気仙各圏域における発達障がい支援を含めた、復興への課題についての報告がなされ、盛り沢山な内容のシンポジウムとなりました。日ごろから連携していただいている関係機関の方々にも、多数参加をいただきましたが、同じ方向を向いて支援を行う機関同士、目的とつな



12月8日に開催した発達障がいシンポジウムの様子

がりを確認するシンポジウムであるようにも感じられ有意義なものでした。

〈おわりに〉

当センターは、本格始動して間もなく、力不足なところもありますが、この地に根ざすことで、身近な相談機関としての強み、「必要な人にとって、いつでもそこにある機関」として、被災地の関係機関との連携をさらに深めながら、役割を果たしていきたいと思っております。

(主任相談支援員 釜ヶ澤 尚)

いわて障がい福祉復興センター

(宮古圏域センター)

〜福祉サービス事業所の活性化につながる支援を〜



1 いわて障がい福祉復興支援事業について
岩手県社会福祉協議会が岩手県から委託を受け、県内の障がい福祉サービス事業所の安定した運営に向けて、就労支援事業所の活動支援など、被災地においてサービスが円滑に提供される体制を支援する事業です。平成24年4月に、宮古、釜石、気仙地域をはじめ、県内9箇所にセンターが開設され、各地域の社会福祉法人から職員が派遣されていますが、当事業団からは、私が宮古圏域センターに派遣されています。

2 事業内容

復興センターの主な事業内容は、
①障がい福祉サービス事業所への支援
②東日本大震災で被災された障がい者が困っていることの調査(サポート)
③障がい者災害対応マニュアルの作成です。

3 調査から見えてきた課題

(1)避難所における生活について
高齢者、子ども、障がい者に関係なく、プライバシーのない避難所では、睡眠、食事、トイレが不便であったこと。また、避難所生活が長期間となり、親戚知人等の家に移った方や、自宅2階で生活していた方も多かったことなどから、災害時の避難所のあり方が課題としてあげられます。
(2)医療機関について
医療機関は、病人・被災者等が集まっ

(3)仮設住宅での生活について
仮設住宅では、近隣との係わりが希薄になりやすく、近隣住民等とのトラブルなど、人間関係の問題が懸念されること、住宅の造りが高齢者、障がい者にとって不便であり、通院する手段もないこと、高齢者世帯の割合が高くと、今後の生活の目的が立ちにくいことなどから、生活全般に対する支援のあり方が課題としてあげられます。

4 今後について

宮古圏域センターでは、調査で明らかになった課題を可能な限り支援につなげ、また福祉避難所や地域に即した障がい対応マニュアルを作成するとともに、各障がい福祉サービス事業所の活性化につながる支援をしていきたいと考えております。



復興支援センター会議の様子。課題への対応について協議しています。

(復興支援コーディネーター 高橋 功)